

'01 青少年カナダ交流訪問団報告～Part2

'01 青少年カナダ交流訪問団

2001年7月26日から8月11日の行程で実施された青少年海外派遣事業(青少年カナダ交流訪問団)の報告として、参加された皆さんに思い出を綴ってもらいました。前号につづき掲載します。

エピソード 「ハプニングの連続だったミレニアムファミリー」

深川国際交流協会理事 高田真知子(引率者・10人の臨時ママ)

今年の青少年カナダ交流訪問団、ミレニアムファミリーにはさまざまなハプニングがあった。

①出発予定日の飛行機が混んでいて12人分の座席が確保できず、出発が予定より一日早まった。しかし木曜日に到着したおかげで、翌、金曜日には子供達と顔を合わせて初日の様子を聞くことができた。もし予定どおりに出発していたら、月曜日までみんなで顔をあわせる機会がなかった。あわただしくホストファミリーに引き取られた、子供達の不安と緊張に満ちた顔を思い浮かべて、どうしているかとても心配して週末を過ごしたと思う。

②千歳で預けたスーツケースが、ひとつだけバンクーバー空港で中々出てこず、カナダ入国に手間取った。このことで渋滞の時間帯に巻き込まれてしまい、ホストファミリーとの対面場所に一時間も遅れて到着となってしまった。到着早々「申し訳ありません。直前にホストファミリーが変更になりました。」と聞かされた。葵のところのことだと思った私は「ハイ、直前に聞いております。」ところがなんと、到着する日の朝になって、かなの所が変更になったという。かなの不安そうな顔。かわいそうに。

だが、心のケアをしてやる暇もない。幸い、やさしそうなお父さんだし、比較的私のホストファミリー宅から近い。明日の朝は我が家まで連れてきて、私と一緒に登校する話し

合いが、ホストファミリー同士ですでになされていた。私のホストマザーが、私の心配に気がついて、あの子がホームステイする家はこの辺りだよと、途中わざわざ寄り道してくれた。その気配りがありがたかった。滞在中、葵もかなもホストファミリーには随分親切にしていたので、この変更は結果的に吉とでた。

③日曜日の朝、葵のホストファミリーから電話があった。昨夜から嘔吐、発熱して寝ているという。電話口で葵が心細そうなので、取り敢えず様子を見に行くことにした。扁桃腺がはれている。翌日にビクトリア旅行を控えているので、念の為、病院に連れて行った方がいいと判断した。

幸い、同行してくれた私のホストマザーが、病院関係で働いており、日曜日でも開いている病院の情報などに詳しくた。ケリーさんと連絡を取り、カナダの日曜当番病院を初体験した。直前に変わった葵のホームステイ先も、良い人たちで親身に介抱して下さいました。おかげで葵は元気になって、ビクトリア旅行に参加することができました。おまけに、ビクトリアで別の生徒の扁桃腺が痛くなったのだが、葵がたくさん持っている扁桃腺の薬を分けてもらって、早めに対処することができた。カナダは朝夕の寒暖の差が大きいから、旅の疲れなどが重なると、扁桃腺の弱い子は影響を受けやすい。予め抗生物質を持参した方がよさそうだ。

④ビクトリア旅行から帰った翌朝。「先生、ホテルにジャージの下を忘れて来てしまいました。」これは、まずい。ビクトリアでは、だいぶケリーさんのご機嫌を損ねている。おそろおそろケリーさんに伝えようと、案の定、あきれた顔をされた。その目は「あんなに忘れ物をしないようにと言ったのに！」と言っている。「ホテルと連絡を取って送ってもらっても良いですが、帰国する日までに、間に合わないかもしれないですよ。それでも連絡しますか？それほど貴重なものですか？」と言われた。

帰国まで、まだ1週間あるし、同じBC州である。2、3日あれば届くとは思ったが、だいぶ着古したジャージだから、ホテルに長距離電話をかけて、送料を払ってまで取り戻す価値はないだろう。この際、あきらめさせて迷惑をかけないことにした。その数分後「先生！バッグの中にありました！」ああ、連絡しなくてヨカット！

⑤かくいう私も、子供達の忘れ物のことをいう資格はない。行きの成田空港と帰りの千歳空港で2回もキャリーバッグを置き忘れた。行きは子供達の夜食を買った空港売店に、2回目は荷物受け取りのターンテーブルのそばに。移動の節目で何か予定外のことに気を取られたり、予定外の荷物で手がふさがったりすると、本来の荷物に気がまわらなくなってしまう。

これが外国の空港なら、持ち去られたか、不審な爆発物として処理さ

れたに違いない。幸い 1 回目はタカが、シャッターの閉まりかけている売店にダッシュして取り戻してきてくれた。2 回目は、気がついて慌て始めた私を見て、ニヤニヤしながら子供達が言った。「先生、ここにちゃんと持ってきてあるよ！」1 回目の事件以降、常に私が忙しい時には、生徒たちが私の荷物に気をつけていてくれたのだ。心優しい子供たち、サンキュー！

⑥最大のハプニングは、何と云っても羽田一泊だった。バンクーバーを発つ時点では遅延の理由が不明であった。悪天候などの自然現象が原因なら、ホテル探しや代替の飛行機などの手配はすべて、我々がやらなければならない。それに伴う費用も乗客の負担になる。航空会社のミスで遅延しているなら、すべて航空会社が手配してくれる。

いずれにしろ、お盆の繁忙期の金曜、土曜に、12 人分の宿・座席の確保などは不可能に近いと思われた。JAL の本部コンピューターの故障で、昨日から JAL の便が全面的に混乱していることが着陸前にようやく、わかった。よし、何が起きても JAL が手配の責任を持ってくれる。まず、ほっとした。

飛行機を降りた私たちを待ち構えていた JAL 職員が、「とにかくお急ぎください。千歳行きを待たせてあります。」旅行中、並んで待たなければならない数々の場面では、「他人を押し分けたり、掻き分けたりしないで、あせっている人がいたら、先に通してあげなさい。競争する必要のないことだから。」と指導していた。

しかし、今回はそんな事は言ってもらえない。「押し分けたり、掻き分けたりまではしなくてよいが、お人好しになって先に通してあげたりは、しないで、とにかく急ぎなさい。入国審査も、荷物受け取りも、固まらないで、とにかく空いている列を探して並びなさい。」

ようやく、みんなが揃ってから、国内線への長い通路の、動く歩道の上を重いスーツケースをころがしながら先頭を走った。「すみません、乗り継ぎ時間がありませーん、先に行かせてくださーい。」と叫びながら。後ろを振り向くと、普段はのんきに歩く子供達でも必死で走ってついて来る。ケリーさんにこの場面を見せたかった。健脚な子供たちは動く歩道を使わないで、走ってついてきた。はあはあ息を切らせて。

JAL 国内線カウンターに駆け込んだ我々を待ち構えていたのは、「すでに飛び立ちました。」という無情のメッセージ。ヘナヘナと座り込んでいる場合ではない。乗れると判断して千歳へ向かっている市役所のバスを止めなければならない。すでに三笠のインター付近まで来ていたバスに引き返してもらった。

「先生、私達ここで野宿するんですか？」なんて心配していた子供達も、食事をして落ち着いてくるにつれ、東京で 1 泊できて、ラッキーと思いはじめたようだ。幸いホテルも羽田に確保された。引率者 2 名で 1 室の割り当てと言われてあせったが、交渉して別々の部屋に替えてもらうこともできた。飛行機の座席は 12 まとめて確保できないので、ばらばらに帰ってもらわざるを得ないと言われていたが、深夜になって、朝早い便で全員一緒に帰れる事になった。あわよくば、羽田空港でショッピング、お台場辺りで東京見物などと考えていた生徒は、あてがはずれたかもしれない。

最後の最後になって、とんだハプニングであった。これを書いている今、アメリカで起きた同時多発テロで、世界中の空港に厳戒態勢がしかれている。もし、これが一ヶ月前に起きていたら？考えただけでもぞっとする。羽田 1 泊なんて可愛いものだ。でも、「え？空港に足止め？やったあ、まだカナダにいられるう！」と、もしかしたら子供達は言

ったかもしれない。

情報公開できないハプニングも数々あったが、とにかく全員元気で無事に帰ってくる事ができた。

「成田離婚」という言葉に象徴されるように、海外では疲労やストレスから、感情の行き違いが深刻な争いにまで発展することが多い。行きは仲の良かった友人や家族が、帰ってくる時には、お互いに顔を見るのも嫌になって成田到着、という例は、私も幾つか知っている。私達ミレニアムファミリーは、仲間内のいざこざやもめごと、仲間はすれなどは一切なかった。

宮田さんと私は、事前研修期間も含めた長い期間を、お互いに助け合い、2 人にしかわからない苦労をわかちあいながら乗りきった。BC ミュージアムには、タカや大介と 4 人で実の親子のように、家族割引入場券を買って入った。ドライバーのベンに「お 2 人は実の夫婦なのか？」と聞かれたくらいだ。（その時、宮田さんの顔が心なしに引きつったように見えたのは、私の気のせいだろうか？（笑））ホテルの部屋割り、飛行機の座席割り、食事のテーブル割など文句が出たり、仲間はすれが出たりしたら困るなど思う状況もあったが、みんな快く受け入れて従ってくれた。とにかく、にわか作りの寄せ集めファミリーがこうして仲良く帰って来られたのは、各自の忍耐、思いやり、譲り合いの努力があったからだと思う。

深川・アボッツフォードの姉妹都市交流は着実に活発になってきている。今年からは高校生の交換留学制度も始まった。カナダの人たちが深川に、そして子供達の学校や家庭に来る機会が増えてくるだろう。その時は、あたたかく迎え入れて交流の輪を広げたい。今回のカナダ訪問で体験したことが、子供達のこれからの人生で大きな意味を持ってくれば幸いである。

この事業にあたっては、パフォー

マンズの指導、衣装、メイク、楽譜、伴奏の録音など、様々な分野で多くの方々に協力して頂いた。裏方とし

て、しっかり支えて下さった事務局の方々は陰の引率者である。カナダ側、日本側のお世話になったすべて

の人々に改めて感謝して報告を終わりたい。

一生の思い出

岡 隆史（深川西高校3年）

待ちに待ったピクトリア旅行

今日は、待ちにまったピクトリア旅行。なんと朝4時30分に起きて半分寝ボケながら仕度をした。弁当を持ってダイスケと学校へ・・・。

朝は本当に寒かった。5時45分、みんなねむたそうにスクールバスに乗って出発。みんなホストファミリーの話や土・日の話で盛り上がっていた。初めてのホストファミリーとの休日を楽しく過ごせたようだった。そして、1時間半ほどでフェリーターミナルに着いた。

いよいよフェリーに乗る時間がきて8時出発。久しぶりに乗る船にちょっと緊張しつつ船内見学。甲板で写真をとったりして楽しんだ。船から見る景色はとても綺麗だった。9時40分着航。外もだいぶ暖かくなってきた。そして、少し小さなスクールバスに乗り、プチャートガーデンへ。すごく広い所で花もいっぱい、ハチもいっぱい大きな噴水もあって感激した。12時にバスに乗り、「DAYSINN」というホテルに向かった。すごい街中で州議事堂とかあるし、高級ホテルもあるし海も近かった。

昼から「GRAYLINE」って名前の2階建てバスに乗って市街見学。買い物通りを通って、高級住宅街、海辺を通った。途中、アザラシを見ることができた。4時頃戻ってきてガバーメント St という買い物通りを歩いた。女の子は早く買物したそうだった。そして着いたのがチャイナタウン。やっぱり「中国」って感じの物ばかり売っていた。5時中華調理店「DonMee」で夕食を食べた。個人的にはあまり中華は好きじゃなかったの、食べれるのは少

なかった。で、みんなに感想を聞くと全員「ま〇い!!」だった。「まー中華はこんなものかー」と思い、ますます中華嫌いに……。ぜいたく言ってすみません!

帰りはいよいよ買い物スタート! GAP とかで、はやくも「服」購入。そしてスターバックスでコーヒータイム。その後ホテルについて Bed へ……。メチャ×2疲れた。

夜の9時ごろから宮田さんと大介と3人で2時間ほど熱く語った。大変勉強になった。

さらにその後、こんどはみんなと夜中まで色々語った。何か修学旅行を思い出した。楽しかったけど、実はあまり寝ていなかった。

こうして1日でたくさんの思い出を作ることができた、ピクトリア観光旅行1日目終了。

僕のホストファミリー

僕のホストファミリーは4人家族だった。Dad と、Mom とアダムとアリソン。

Dad は、おおらかな人で車好きな人。Mom は、一番陽気な性格で散歩が好きな人。アダムは、16才のバスケットマン、クールでナイスガイだった。アリソンは18才同い年だけど遥かに大人っぽかった。

アダムはいつもバイトでアリソンはいつも出かけていたので、土日と夜以外はほとんど一人っ子状態だった。

この家では毎週日曜日になると、教会へ行くという習慣がある。実際に2回連れてってもらったことがあった。みんな聖書とか持って「アーメン」とか祈ってた。ほとんどわけがわからず座っていただけだったけど……。

一番印象に残ったのがバンクーバーの花火大会。少し雨が降る中、中国の花火が上がった。見たことのない花火がたくさんあって、スケールが大きくてしばし見とれてた。あつという間に終わってしまい帰ると12時をすぎてた。

あと、アグリフェアという農業祭にも連れてってもらった。カークラッシュショーなど日本では見たことのないのをたくさん見れた。

すごく貴重な体験をしたな一つて思った。

最後の別れの日。まだカナダにいたくなり、時間が戻ればいいな一つて思った。学校での別れ、Dad に「またいつでもカナダにおいで」と言われた時、胸が一杯になり、ただ「Thankyou」としか言えなかった。やっぱり別れはつらいとあらためて思った。

このホームステイは言葉では言い表せないほどの体験をし、感動を得た。一生の思い出になるだろう。

また何年か後に、今度は英語をもっと話せるようになって、もう一度、Dad と Mom に会いに行きたい。

口笛の上手なケリーさん

この2週間の研修に欠かせない人物がいた。ケリーさんという添乗員?

この研修の間、行きのバンクーバーの空港から帰りのバンクーバーの空港まで、いつも僕達を仕切って案内してくれた。

ケリーさんは、一見おじいちゃんのような、でもかっこいい人だった。元学校の校長だったとか。カナダのことはほとんど知りつくしていた。おそろべし……。

ケリーさんとは、バスの中とかで

何回か話したけど、とても優しくて面白かった。時々、口笛なんか吹いちゃったりしてた。(ものすごくうまかった)

研修中に、まとまりなく歩いていたりすると、すっごく機嫌が悪くなり、怒られたこともあった。ゴメン

ナサイ。

ケリーさんとは本当にたくさん思い出を作ることができて、思い出すのがたいへんなくらいだ。

帰りの空港での別れの時、一人ひとり握手をした。涙が出そうだったけどこらえた。

今、こうして思い出すと、本当にいい人だったなあって思う。

ケリーさん、ありがとうございました。

また、今度会えたらいいですね。

言葉に表せない日々

山田みゆき (深川西高校 1 年)

8月3日

今日は勉強なしで、いつもの運転でいつものバスで約1時間かかってStanley Park (スタンレイパーク) に行きました。

ここは、入場券のかわりに手にはんこを押して入るんです。なか×2いいアイデアだと思いませんか？

スタンレイパークには、ジャングルみたいな所があって蝶や鳥、爬虫類がいました。葉には蝶が休息していて、小川みたいな所には鳥が水遊びをしていて、地面などをトカゲなどの爬虫類が散歩をしていました。

他に水族館みたいなのところがあって、大きな魚や小さな魚がいました。名前はわからないけど、他にカエルやワニもいました。ワニは全然動かなかったけど。ここで、魚やエビを見て、みんなで「寿司、食べたーい!!」なんて言ったりしてました。

そして、お昼ご飯を食べました。あいかわらず、カナダのお昼ご飯は面白い!!「何これ?」っていう物まで入ってて興味新々。そしてWhale Show (鯨のショー) を見ました。白いクジラで可愛かったです。イルカみたいにハイジャンプはしなかったけど、クジラさんジャンプしたり、水をふいたりしていました。

次は Capilano Suspension Bridge (キャピラノ渓谷) に行きました。ここは有名なつり橋でとっても大きくて、高かったです。眺めは良かったです。でも、みんなで「キ

ャー、キャー!!」言って渡ったりしました。とても迫力満点でした。楽しかった、っていうより恐かった。

そして、ここではスタンプを集めたら、「I MADE IT!」のはんこをケリー (学校の先生) に押ししてもらいました。ケリー、他の子にも押ししてもらいました。ケリーは実はみ〜んなど仲良しだった。あと、素晴らしい紙きれの賞状をもらいました。

途中に、トーテムポールみたいな、インディアン彫像がいくつもありました。一本の木に赤ちゃんを背負った人や、何人も人の様子が彫られていました。

そして、買い物 time。色んなお土産を買いました。彫り物ののが、けっこうありました。そして帰ろうとした時、雨が降ってきて急いでバスに乗り込みました。

6時ちょっと前に学校に着いて各自、ホストファミリー宅へ……。

「思い出いっぱい Host Family」

私にとって初めての Home Stay は超→最高でした。Host Family も、すんごくイイ人達でした。

家族は、父・母・娘と私と同じく Home Stay をしていた埼玉の男の子がいました。家に帰っても日本語をしゃべれたのがとっても Happy でした。

ホストママはやさしく、ママのつくる料理はおいしくて勧められると、つつい食べちゃう自分でした。ホストパパはおだやかで、毎朝5時半に起きて出勤する早起きさんで

した。

娘のティファニーは19才にして0才 (5ヶ月くらい) の赤ちゃんがいました。とてもビックリ。赤ちゃん、笑ったりするの気紛れだけど、可愛かったよ。ティファニーは子守りとかで忙しかったけど、時間さえあれば、ミュージシャンのこととか教えてくれました。ほとんど、知らない人達だったけど。

私の家は学校から歩いて3分くらいのところにあって、初めての学校の日、いきなり歩いて学校に行きました。みんな車なのに……。でもカナダの町を歩くのも悪くなかったです。あとコーヒーショップを営んでいたけど、家と別々で残念でした。

このStay 中、連休が何回もあり、その時もいろんな所につれてってもらいました。

そして、いろんな人達に会いました。ホストママのママや、ホストパパのお兄ちゃんに。

みんなおもしろくて、仲のいい人達でした。ゆっくり話しかけてくれたりしてくれて、うれしかったです。とにかく、いっぱいしゃべっていっぱい食べました。とても、イイ人達ばかりでした。

そしてこの連休中、ホストファミリーは Vancouver を見せてあげたいと、つれてってくれました。港町で景色のいい所でした。とても静かな所でおちつく所でした。夕日なんかまた最高でした。見てるだけで、胸がいっぱいになる所。ホストファミリーには感謝×2です。

あと、学校が終わるといつものように、買い物に行きました。ママが私と同じ買い物が好きらしく、共にEnjoyしました。カナダの物はとにかくSizeがでかい！！と聞かされてはいたけど。建物や食べ物や服。でも、とても楽しかった。

本当、カナダの文化、生活、環境

にはビックリの毎日でした。言葉に表せれないほどの素晴らしい14日を送ることができました。

Host Familyの人達もみんな仲良しで、その輪に入れたかな？と思います。また是非、行きたいです。今度はもっと×2英語がしゃべれるようになって行きたいです。今度

はHostの人達に迷惑をかけないように・・・でも自分は前より成長できたかな？と思います。

絶対、カナダ&Volden（ヴォルデン）家に行つて、パパとママのつくったコーヒーをのんでやるんだ！！

ありがとう！！シーバー家のみんな！

小杉あかね（深川西高校1年）

マックイトレイル

8月2日。今日は「マックイトレイル」というところに乗馬をしに行つた！！

スクールバスに乗っていったんだけど、いつもの運転手さんのベンじゃなくて女の人だった。でもそんなこと気にしないで、みんなでワクワクしてたのもつかの間！！この人が道路の標識みたいなのに、がつりこすっちゃつた！！みんな、ア然状態に落ち込んだのは言うまでもない。

そんで、無事に何事もなく？！マックイトレイルに到着！！着いたら大きいトランポリンを発見！！みんなしてアホみたくポインポイン跳んでいた。でも、みんな夢中になりすぎて、最初の目的を忘れてしまっているのに気づいてやっと乗馬を開始→！！

馬に乗る時、申しわけない気持ちになりつつ、思いきって乗った。乗ってみると馬の背中が高く、とっても気持ちが良かった。

最初の方、馬さん達はゆっくり歩いてくれて、優雅な気持ちにひたつたら、急に馬が走り出した。そしておしりに激痛が！！これは本当に耐えられませんが！！でも、最後の方になったら痛さに慣れてしまつて、乗馬を楽しむことができたのです。でも、馬から下りた後、みんなの動きがおかしかったけど気にしないことにしよう(笑)

乗馬の後に、大きいフォークみた

いなやつにウィンナーを刺して、火にあぶつてホットドックをつくつて食べた。ちょっと雨が降つてたけど、外で自分達でつくつて食べるのは美味・だった。マシュマロもあぶつて、トロ〜リしてるところを食べた。これも美味ですな。

それから学校にもどつてきて英語の授業をしてたら、ローラが大きなケーキとアイスクリームをいきなり持ってきた！今日はあおいちゃんのお誕生日なのです☆しかもケーキはローラの手作り！！味は・・・だったけど、みんな笑顔で乗りきつた♪でも、アイスクリームはおいしかったし、あおいちゃんも、めでたくこのカナダで16才を迎えられたし、楽しい、楽しい一日だった。

ありがとう！！シーバー家のみんな！

私がカナダでお世話になった家、それはシーバー一家です。

それでは、まずは家族紹介。

始めに、赤髪でショートのココラスママ。ママはとにかく元気で明るくて楽しい人。次は筋肉ムキムキのフランソワーズパパ。パパはマッチョマンだけどとっても優しくていつも助けてくれた。次は、シャンタルお姉ちゃん。すごくスタイルが良くて美人さん。しかも本当によく気の付く人で、私が困っている時とかいつも一番に気づいてくれた。最後はダニエル。私より1つ年下なのに見た目は、はてしなく21歳くらい

に見える大人っぽくて、ここ一番の番長みたいな女の子。こんなかんじの実は不良一家？！みたいなところに私はお世話になったのでした。

シーバー家の人達は、ダニエルをのぞいてみんな料理上手！！ママはもちろんだけどパパも一緒になつてディナーの準備をして、手際よく鳥をさばいてあつという間にささみにしてしまいます！！これには本当にビックリしてしまいました。シャンタルもサラダをつくつたりして、ずっと心配していたカナダフードはとてもおいしくて大好きになりました！！

あと、私がホストファミリーについて自慢できるところ。それは、「何もしてくれない」ところです。もちろん何もしてくれなかったという訳ではなく、本当にお互いに気をつかわず本当の家族のように接してくれたということです。

向こうにいたころ、この「何もしてくれない」は辛くて、寂しくて本当にいやなものに感じました。でも日本に帰つてきてみてもう一度よく考えると、つくり、ありのままの自分達を私に見せてくれたんだなあと思いました。そして、そのほつたらかされた(笑)分、私は精神的にも強くなれた気がするし、本当にいつものつくりだてでない家庭の風景を見ることができたのです。このことはとても自分にとって勉強になりました。

最後に、私は本当にこの一家の家にホームステイできて良かったと

思います。辛いこともあったけどそれ以上に自分にとってプラスになったことがたくさんあります。

ありがとう！！シーバー家のみんな。またカナダにホームステイする時は、やっぱりこの家がいいな

あ！！と、思うあかねなのでした。
☆おしまい☆

ホストファミリーに感謝

堀川可南子（深川西高校2年）

ありがとう！キャシーさん

私たちはカナダにいた間、お世話になった先生たちがいます。私が紹介する人は、キャシーさんです。キャシーさんは私たちのスケジュールなどを立ててくれたり、色々連絡をとってくれたりした人です。あまり会うことがありませんでしたが、とても私たちに親切にしてくれました。そして私たちを影で支えてくれました。また来年、深川から行く学生達のスケジュールを立てるのもキャシーさんであればいいと思います。

本当にお世話になりました。

Thank you very much キャシーさん

さよならパーティー

8月8日

今日は、アボツでの最後の日。

朝いつものように学校へ行き英語の授業。昨日行ったプールでの思い出とピクトリアに行った時の思い出の日記を書いた。その後、今日やる「さよならパーティー」で披露する出し物の練習をした。お昼ごはんを食べながら、Thank you カードを書いた。私は、今日で最後の大事なランチを忘れてしまい、心の優しい子たちからの恵みでなんとかお昼ごはんにこぎつきました。本当に助かった。

1時くらいにキャッスルパーク（ゲーセンのような所）に行き、皆、好きなゲームなどをして遊びました。3時過ぎに学校は終わり、私を迎えに来てくれていたお父さんに頼んで、まちゃこ&ひとちゃんの3

人でモールにつれていってもらいました。そのモールでおみやげを買いました。少しおくれたのですが、お父さんは怒らず「楽しかったかい?」と言ってくれました。その後、ひとちゃんを送り、まちゃこ家でひと休みして、また学校で開かれる「さよならパーティー」に行きました。まもなくしてパーティーが始まり、ディナーをみんなで食べ、ケリーさんの話を聞いてから、昼間練習した出し物を披露しました。すごくキンチョーしました。

最後に今日までお世話になった人たちに、お礼を言って終了しました。

帰りにスーパーによって買い物をした後、家に帰り Thank you カードとプレゼントを渡して、明日の帰る準備をして眠りにつきました。

My host family

私の host family は皆優しくて親切でした。私はアボツに着いてから stay 先が変わったのを聞きました。そんな話をきいてから、ドキドキしながら少しまっていたら、ちょっとプックリとした優しくそうなお父さんが迎えに来てくれました。私はかなりのキンチョーと早口の英語でお父さんの言っていることが解りませんでした。そんな私にお父さんは、何度もゆっくり話してくれました。お母さんは始めちょっと怖い印象があって、近づけないでいましたが、カタコトの英語で話したら、すごくいやさしい人でした。2人の子供もスゴイ親切&カワイイ子でした。上の子は11才。下の子は2才で、とても短い間だったけど妹がで

きたみたいでした。それと家にはいなかったんだけど、おじいちゃん、おばあちゃんもいて、孫好きでスゴクかわいがっていて、私のことも孫のようにかわいがってくれました。

私の host family はちょっとおもしろくて、私が行ってたときに、リビングの様子がえをしたり、それについてメチャクチャいい合いをしたりしていました。私はそれを見ているだけですごくおかしかったです。

私が笑っているのを見て、「あなたはどう思う?これ変じゃない?」と聞いてきたり、「あなたも手伝って」とか言われました。

今も、その時のリビングのままかなあ?としょっちゅう思います。帰ってきたら、すごく会いたいと思うことがあるし、向こうで作ってもらった、ディナーやランチを食べたいと思うこともあります。

私はこんなイイ家に stay できたことをうれしく思っています。

そして、英語を話せない、こんな私を受入れてくれた家族に本当に感謝しています。

ちゃんとした部屋、ちゃんとしたおいしい食事、私に親切にしてくれた心、私は1つ1つ心に刻み生活していきたいと思います。

ちょっと変わっていて、とても親切な My host family、私は決して忘れません。こんなおもしろい体験を本当にありがとう。短い間だったけど、とても楽しかったです。

お世話になりました。

はじまり、はじまり

いよいよ始まったカナダ生活。これから起こる色々なことに、期待に胸をふくらませながら、いつもは遅起きの私が珍しく朝早く起きていた・・・というより、ただ単に早速時差ボケしてました。

カナダの食べ物、とにかく甘いと感じていたので、朝食から甘いのかな・・・と、心配していましたが、出てきたのは日本のものとは、ちょっと変わった小さめのトーストとミルク。ホッと一安心なひとときでした。

いよいよ学校で授業の始まり！学校の中は広々としていて、大きな図書室、大きな体育館、ダンスホールにスポーツジムみたいな場所があったり・・・と、うらやましいくらい充実した設備でした。

そして授業。今回の私達の先生はローラ先生。明るい先生で、色々私達のことを考えてくれていました。今日の授業は買物の勉強。まず、これがわからなくては買物ができません。最初は全然わからなくて大変！コインの計算が難題で、おまけに消費税が大問題。日本の消費税の計算でも一杯の私は、案の定、大苦戦。カナダは消費税14パーセントと、とっても高く、日本と比べると何という差でしょう。この後も、しばらく苦戦していました。

お昼はみんなでロビーに行って、ホストファミリーがつくってくれた、ランチを食べました。サンドイッチにジュースだけだと思いきや、お菓子も入っていたのには少々びっくりでした。ランチにお菓子は付きものなのね。

さあさあ、午後からはみんなが楽しみにしていたマックイ・レク・センターのウェーブプールに行きました。波の起こるプールに入れるということで、ワクワクして中に

入ると、そこには見慣れたポケモンのガチャガチャが・・・。ポケモンは、やっぱり大人気みたい、と思いながら、早くもちょっぴり日本をなつかしく思っていました。

それより、プール！波が・・・波があー！起こってます。大きな波が来てとっても楽しかったけれど、チビな私はプールでおぼれかけていました。・・・情けない・・・。プールの中には、ウォータースライダーや飛び込み板、モンキーロープ等もあり、とても楽しめる所でした。ふと、モンキーロープの方を見ると、そこには我が高田先生の姿。まさか・・・と思って見ていたら、先生、プールでターザンに変身してました。さすが、チャレンジャー、マチコ！

楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、外国の学生チックな気分満点の黄色いスクールバスで帰ってくると、ホストファミリーが迎えに来てくれていました。疲れたけれど、とっても楽しい一日でした。明日は休みなので、きっと朝遅くまで爆睡してます。

貴重な体験・ありがとう！

今年の夏は、私にとって高校受験をひかえた大事な夏でしたが、カナダに行けたことはそれ以上・・・いや、今までで一番最高の、そして思い出深くかけがえのない夏休みとなりました。

カナダ訪問団員の一員と決定した時から、ずっと気になっていたホストファミリー。私の場合は、出発前からメールのやりとりをすることができていたので、早くカナダへ行きたいという気持ちが日に日に強くなっていました。

パパは、とても背が高く料理上手。背の低い私と比べると本当にスゴイ差！料理がとっても上手で、朝にはモチモチ・フワフワのパン、お昼

はいつもパパが作ってくれたサンドイッチのお弁当、夜にはスープやハンバーガーなど、本当に色々なものを作ってくれました。

ママは、いつも優しく明るく、とても笑顔の似合うママ。毎日のことを気にかけ、たくさん話しかけてくれました。最後の日の朝には、とても大きなクロワッサンを焼いてくれました。あの味は今でも忘れられません。ガブリエルとステファニーの姉妹は、運動が大好きで明るい子！二人とは一緒によく遊びました。ペットがたくさんいる家庭で、動物が好きな私は犬の散歩にもよく一緒に行きました。

休日には教会に行って、初めてミサに参加しました。スキー場で有名な山があるウィスラーや、お隣の国、アメリカへも買い物に連れて行ってくれました。ウィスラーに行った時は、天候に恵まれず、残念ながら山に登ることはできませんでした。とっても大きな巨大トランポリンで、すごく楽しく遊ぶことができました。また、カルタス・レイクで樹齢千年を越す大木を見た時は、感激で日本とは全く違うカナダの大自然にふれることもできました。

ファミリーと別れる時はとても悲しくて、涙が次から次へとあふれ出てきて、止まりませんでした。最後に「ここは、あなたのもう一つの家よ。」「あなたが使っていた部屋は、また今度来る時まで取っておくからね。」とってくれました。私を優しく迎えてくれたファミリーに、またいつか会いに行きたいです。

こんな大きなチャンスを与えて下さった多くの方達に心から感謝しています。本当に貴重な体験ができて、私の一生の思い出となりました。

青少年カナダ交流訪問団の報告会を聞いて

深川国際交流協会理事 上垣由紀子

第5回目の「青少年カナダ交流訪問団」の報告会が、11月17日、ホテル深川で開かれました。

中学生・高校生10人の団員の家族や協会会員、市民等60人が出席し、アボツフォードでの話に耳を傾けました。子供達は、ホームステイ、英語の授業、乗馬やウォータースライダー等の体験談をユーモアを交えて、楽しく、時にはスライドを説明しながら、話してくれました。16日間の間には、様々なハプニングや失敗談もあったようですが、皆の友情とチームワークの良さで乗り越えたようです。子供達1人1人の自信に輝く堂々とした発表に、私達

も引き込まれ、青春の思い出を共有させてもらったような楽しい一時でした。

青少年カナダ交流訪問団の活動は、16日間のホームステイが大きく取り上げられますが、6月の事前研修に始まり、11月のこの報告会をもって終了する約半年間の活動です。団員の思い出の綴られた素晴らしい報告書が今年も配られましたが、この報告書を書く為に、子供達はカナダでの様々な出来事を思い起こし、整理し、改めて自分を見つめ直します。そして、皆で1つの報告書に仕上げ発表するという作業が、さらに彼等を成長させていく

ように思えます。この報告会があってこそカナダ交流訪問団が単なるホームステイや旅行にとどまらず、団員にとって”実りある大きな経験”となって生きてくる重要な要素だといえるでしょう。

報告会の最後には、子供達のこれからのさらなる活躍にエールを、そして同行した宮田さん、高田さんに感謝の心を込めて大きな拍手がおくられました。来年も又、チャレンジ精神旺盛な中・高生の参加が楽しみです。会員の皆さんもぜひ報告会を聞きにいらして下さい。

国際理解講演会開催される

深川国際交流協国際理解部会 大西 慎一

11月17日、青少年カナダ交流訪問団報告会に引き続き、北海道新聞深川支局長の本村龍生氏を講師に招き、青少年カナダ交流訪問団員とその家族、協会会員や一般市民約60人の出席をいただく中、「元外報デスクの面白講座」と題して講演していただいた。

最初に海外のニュースがどのように日本に入ってきて報道されているのか、新聞の見かたなどについて話したあと、ロシアなど海外に赴任した体験をもとに「世界の人の生き方は多用だが、どこかでつながっている。報道を通じて世界中の深川を考えてほしい。」などと話さ

れた。

この講演を拝聴させていただいて、子供たちは無論のこと、私たちにしても国際的視野の広がった、とても有意義な時間だったと思います。

カナダのフレーザー・バレーってなに？⑪

シリーズ

深川国際交流協会広報誌「わくわく国際交流」では、姉妹都市・アボツフォード市のあるカナダのフレーザー・バレー地域のことを知るために、「カナダのフレーザー・バレーってなに？」をシリーズで掲載しています。今回で11回目の掲載になります。

今回と次号は、第9回拓殖大学北海道短期大学カナダ研修（2001年8月23日～9月13日・学生10名、引率教員1名）に参加した学生の感想を掲載します。

カナダ研修の行き先は、カナダ プリティッシュ・コロンビア州アボツフォード市フレーザー・バレー大学です。研修の主な内容は、午前中は英会話を学習し、午後からは所属する学科に関連する施設等を視察しました。

カナダ研修を終えて

拓殖大学北海道短期大学環境農学科1年 小林 さおり

私は8月23日から9月16日までカナダ西海岸ブリティッシュ・コロンビア州にある州立フレーザー・バレー大学へ行ってきました。フレーザー・バレー大学は4年制の大学でバンクーバーから東へ1時間程のアボツフォード市にあり、学生はおよそ6,000人です。

農業系・保育系・経済系の学科などがあり、実習施設をかねた保育園、外国人の為の英語教育講座、各農業関連施設がありました。

気候は北海道とほぼ同じで、暑い日もありましたが、秋が近づいていました。景観も畑作や酪農が広がり、北海道とよく似ています。北海道と違うところは、湖や滝、ハイキング

コースがとても沢山あり、身近な所に自然があるという感じでした。カナダの人々も自然を満喫し、ゆったり暮らしているように見えました。

私達は約3週間フレーザー・バレー大学近郊のホームステイ先にお世話になり、主に午前中に英会話の授業に参加して、午後から見学実習に行きました。

午前中の英会話の授業ではカナダの地理や文化を学んだり、クイズやゲームをしたり絵を描いたりなど、とても楽しい授業でした。

午後からの見学実習は他の外国人の方と交流をしたり、ハイキングに行ったり、開拓時代の歴史博物館などへ行き開拓時代に作られてい

た物や使われていた物などを見学しました。午前の英会話の授業がない日は、午前からラフティングに行ったりバンクーバーに行ったりと、英会話の授業がない日でも英会話の勉強になり、色々な所に行くことによってカナダ文化を学ぶことができました。

最後に、農業系の見学実習は少なかったですが、カナダの自然を学ぶことができたし、ホームステイ先の方にもカナダの農業について色々教えてもらいました。ホストファミリーとは今もメールでコンタクトを続けています。そして私はカナダの大自然の中でいつか農業をしてみたいと思いました。

カナダの日々

拓殖大学北海道短期大学環境農学科1年 大矢 幸寛

約7時間。カナダに行くのにも帰るのにも、同じくらい時間がかかるのだが、行きと帰りでは感じ方が大きく変わっていた。

カナダにいた日数は、テロのせいもあって21日間だったのだがとても大きな思い出となった。カナダに英語の勉強をしに行ったのだが、とてもいい事に、21日間すべて英語と接する事が出来た。カナダに到着して4日目ぐらいから夢の中でも英語を話すくらい英語の毎日で、すぐに頭の中が日本語から英語に変化していた。

変化できたのはホストファミリーのおかげで、英語を話す機会をたくさんくれたし、話をしている最中やテレビを見ている時に難しい表現が出てくると、何度もわかるまで簡単な言葉に言いなおしてくれた。

それに色々な場所に連れて行ってくれたり、地名や、湖、川、山の名前や、カナダの歴史などをわかりやすく説明してくれた。

今回、一緒に行った友人が拓殖大学北海道短期大学のカナダ研修で

始めて病院送りとなったり、コーディネーターとの意見の違いや、米国でのテロなど、色々な事件や問題があったが、カナダでしか出来ない経験が出来て良かったと思う。自分が楽しむ事できたし、何よりも自分の英語の会話力が上がって良かった。そして、カナダにもう一つ自分の家族がいるような気がする。

機会があれば、カナダに行き、カナダの家族に会いに行きたいです。カナダに行って本当に良かった！